引通譬幕明

完

手紙

寅 巻十一

へ13
2946
145

145
八13特
2946
145

序

嘗聞荀子性惡孟子性善の確言も放屁書生の腹乃底にまゝ處ハ穴紙色の表紙ふかく。陳腐漢文屁の如く新唐古唐庵本ハ奉ず金義ハ等〳〵関山もどゝを是聖賢の主旨人善ハ勧ム裏表余此説を不圖原〳〵忽然一固乃旨趣と案じ悪を汲〳〵の仏と即善ハ弓道の喩の幕明と題〳〵てチヨビト心學者流の茶碗の端と擲く支爾

干嵗寛政己未春　於喰囉哩楼

式亭三馬題

不量軒
栗和里先生譯
本心無掛直
不心學請合賣
道理先生
心學本を
引つの
喩乃幕明

明德
欲
金も
亀も
二本棒
明德の
酒の
酒の
一升
のみかけの

酒曰堪忍五両
而后員亦三両
則天窩打擲茶
碗無懸直也

夫如屁而不敬者妻若屎而盆不憐

ちまたの
うさに

不孝
異説に曰孝行のしるしあり身を賣るる孝子見世乃
はながきのしるしをふるまつて世の
放蕩家をさとす曰
不孝の人ヨーヨー
笑話図
あのれらハこみやんの
ねぶめと
きてらる
ホンラ
ヤレモ
ホンラ
ヤレモ
ナニト
なのくしろうと
これくらげ
おまけご
りんろ

不貞

不忠

ゆびをとぎすまして芝居茶屋の娘の柱のまぶ青く気をそる丸のうちめ

不信

「こそうし卅年ハさえだし ふの字づくしでせよく 見られバ卅さくしやハらけ やそらもいつさてござ

明友ハ信をさくしくまじハれるこそ君じの世ずゆやぎらが例のちえ究えられバ一向さらぶらずぐどさるつるく抑くがよしまづさもぶきらのつき合りつすのハふぎえそハききうしつもうらのでるゆるるらうえどさみるべむしゆうとかららけんぶしきてへさやぢさうえとさくし万るみかをりく思りておゝもこらりをらぬゆまぞこれバ不信のゐてし　かゝのかあり
たとへバ　友達来つて曰コウ今ゆらう素情ハぞうぞふ抑りやしよ大きなふのさ申し友達ら抑んぶらる

こつてりくべーそこでかくそのゆらろん松ど忘らんらふせるサアつくめとなるその時曰コウわしで寺さそりいてみぞぶやしと抑つらけてさのむ友達もよんざよあくぶそりくえゆへもと肉へうつぶもとその舎をとうつさをぎらずぞし又向ふへ向くのをくくらのすれさもう六ぶらをとぬちもらしこれ清人ぶ酔こ姪人から乃とをてゝぶるみ侍るしぞや

「年かさゆゑくこうと下の孫の宮るめふあゆちわり　世川とつうまやアへまとくぞしそほしもぞゞく

心學やなし草ハ
あい〳〵ちゑみと
ゆ〳〵しくれぐとこゝろつゝり
あんまり俗物でゝ世ぐさとトカ行く

ヨツト兼知くく

○ヨツトせくちく〳〵とまのあたりハ家内不安全祈願の世がゝーめいにくるみの物まとゝ雪
せくちく〳〵もしエあまくこの物まとゝうとゝさらせ山よのつゝいふまくこうれなさくゝこうヨツト
よせび神のさんまいヨツトせくちく〳〵コレヨおのゝとゝいくゝーこうしいこゝ初くく
こうもあまくのあいをとちのこうさ犯文さあの神の門りるとうさ角やき
とくの物ふもあまくみよヨツトせくちく〳〵ゝやそくめつくこゝゝあつくヨツト
せくちく〳〵こうのだくさんちやゝ出つくヨツトせくちく〳〵ひくのぢこえ
ちぐあつくヨツトせくちく〳〵こうのぐこゝとヨツトせくちく〳〵こうて
こまゝぐめくゝくこゝくゝ又一牧
牧あけて
それぐくゝとゝ

雨のうるのさくのつる
そちらすれハ
ときころ
下界

一休和尚の哥

筆庵和尚傾城の賛

備前の祖師を愛ハ五尺のからだ
のゆくへのふと申しんで亀即昼空即是亀

女房孝行記

亭主自讃哥ろ白

我なぐら嘸と烏も及ぶまじ
ごんぼうくかゝア孝行

金
楚國無以爲寶四國迴成猴
楚國

歌に
黄金の肌はうとく
佛なる面迫を
極楽
金
敵の
世の中

人間の栄花はどうぢ五十年
夢方をみる夢はさめる際
李白一斗詩百篇
雖貧勿鈍雖鈍勿貧
貧鈍貧貧鈍鈍

物のゞ子となぞでさることとさる余ふら佛ながつつ神とあ事

序開小出る
不量軒柔和理先生の白

さてよや悪の道と善と [illegible]

[illegible]

作者もさらでめでたし〳〵

新作芝居出来ぬ時は引合ふやうに出来ぬ時は追々えいとぎすいて
ひとり笑ひこの身呈は即左の通り

夫れ南木是れ嘘氣　俠太平記向鉢巻　三

心教言悟段續　引返壁言幕明　三

略画授傳　無學馬鹿式拆本

芝全交寺戯作開帳　空如来万縁起　三

世話平時代哉　天茶掛押兵　三

式亭増補　紅盛南京焼繼　三

草莊子五蝶夢　式亭三馬楽日記　三

[illegible]

全交しこの相成ると云ふ名ばかりの作をあつく
古人の高名をけがすことを思れいきぐ改名お仕ノ繰り全交が伝と
[illegible]